

歴史探訪

クラブ! 其の161

History Inquiry Club

文化生涯学習課 ☎ 23局3635
FAX 22局3811

鈴木翠軒揮毫「万葉の歌碑」

渥美半島の先端、伊良湖岬の古山中腹に、伊良湖の地に流された麻続王の歌とされる「万葉の歌碑」があります。この歌碑を揮毫したのが、地元出身の書家鈴木翠軒です。

鈴木翠軒（1889～1976）は、明治22年、現在の田原市堀切町で生まれました。幼いころから書に優れ、大正8年（30歳）に上京を決意し、書家の道を歩み始めます。昭和7年（43歳）には、文部省から「国定甲種小学書方手本」の執筆を依頼

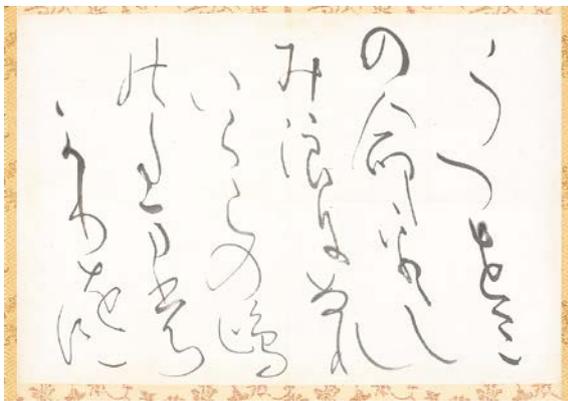
され、昭和13年にこの大役を終えました。そして、昭和35年（72歳）に日本藝術院会員となり、書道界の指導者としての地位を築き上げ、翠軒の時代とまで言われました。冒頭の「万葉の歌碑」は、この1年後に揮毫しています。その後、昭和43年（79歳）には文化功労者として顕彰されました。

鈴木翠軒は、どのような書道家だったのでしょうか。翠軒は、中国・日本の名碑法帖を丹念に学びました。そして、漢字と仮名を調和させ、流れと伸びのある独自の書風を打ち立てます。



●「万葉の歌碑」を眺める鈴木翠軒（田原市博物館蔵）

また、翠軒は「書人 翠軒」の中で「廣大無辺にして男性的な故郷の風景に宿る神秘性や哀感、簡素な家屋や生活様式の単純性などが一種の潜在意識となつて、陰に陽に私の作品に影響していると思われる」と書いています。幼少期から伊良湖岬の自然や風土の中で育ってきた経験が、彼の作品の根幹に存在し、素晴らしい独自の書風を生み出したのでしよう。



▲「万葉の歌碑」を最初に揮毫した際の原本（田原市博物館蔵）

翠軒は、「万葉の歌碑」を揮毫した際、一度彫刻を始めた作品にかえ、新たに書き直した作品で彫刻を依頼しています。故郷の伊良湖岬で詠ま

れた歌に対して、よりよい歌碑を残したいという強い意志が伝わります。「うつせみの命を惜しみ浪にぬれ伊良湖の島の玉藻刈り食す」に込められている思いを、一字一字でいねいに書きながらも、なめらかで流れるような運筆で表現しています。書家鈴木翠軒の書による「万葉の歌碑」を、伊良湖岬の美しい風景とともに楽しんでください。

（清水）

お詫びと訂正

広報たはら平成26年7月15日号12頁「田原歴史探訪クラブ」（1段目）に誤りがありました。お詫びして訂正します。

【表中】 正：高畑米一氏

誤：高畑米吉氏

今月の「表紙」

▼田原市では「日本一の花の生産地から、日本一の花を贈るまちに」をスローガンに花を贈る活動を広めています。大イベントじゃなくても、大きな花束じゃなくても、ふと相手のことを想った時に一輪の花を贈るような…。小さな喜びがたくさんあるうるおいに満ちた毎日が皆さんに訪れますように。(O)

【表紙の写真】田原市産の花（協力）河合真理子